事例No.	2097
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	福島県会津若松市

事例区分	DX

タグ	・観光 ・ICT

事例種類	観光

事例内容・タイトル

音声ARを活用した観光サービスの提供

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

117 音声ARを活用した観光サービスの提供【福島県会津若松市】

事業の概要

○ 会津若松市では、令和3年に音声ARを活用したまちなか周遊事業を市内の3つのエリアで実施した。

○ 音声ARとは、専用アプリとGPSにより、利用者が特定のスポットに接近した際に、音声解説やBGMが自動で再生されるものである。市では、これを利用して、日中は、デジタル音声観光ガイドとして利用する一方、夜には、肝試し体験のツールとして怪談話や黒電話の音による演出するなどの使い分けを行った。※令和4年2月末まで開催。

○ 利用者は、自動で音声を受け取ることで、人との接触を減らしなし、観光を楽しむことができる。



チラシ

【参考情報①】 人口：11.5万人
関連URL：https://www.aizukanko.com/event/884
（会津若松観光ナビ）

【参考情報②】地方創生推進交付金（内閣府）とは
URL：https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/souseikoufukin.html

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



新型コロナウイルスの影響により、夜間交流人口が激減したことを受け、コロナ禍においてもパーソナルスペースを確保しながら個人のペースで楽しめるなど、密回避を前提としたニューノーマルな観光コンテンツの開発を考えました。

（会津若松市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



システムの導入にあたっては、内閣府の地方創生推進交付金を活用しました。



事業の近況を教えてください。



事業開始から２ヵ月間の体験者数が約3,000名にのぼり、体験後に飲食店を利用するお客様も多く見受けられたことから、夜間の賑わい創出に貢献することができたと考えています。

★担当：会津若松市観光商工部 観光課★

令和3年度事業費　10,400千円
（うち、地方創生推進交付金（内閣府）　10,400千円）